

普通科生物15班

分解者による分解

班員 後藤 海翔 島津 晃司郎 指導者 寺田先生 飯干先生
栗原 英一郎 黒木 大夢 青木 遼太

研究の動機

地面に落ちている果実、枝、葉、木などがどのようにどのくらいの期間で分解され肥料になるのか知りたから。

先行研究

人家に多く発生する、私たちに最も身近なハエの一種で、生ごみや排泄物など、腐敗した有機物を分解し肥料などに変える。

研究方法

数個の2リットルペットボトルを用意し、各ペットボトルに別々の分解者を入れ、葉っぱ・枝など色々なものを入れて分解者による違いを見る。分解する速さや分解のされ方などの違いを見る。



必要な道具

ペットボトル数本
(2リットル)
スコップ
土 分解物



仮説

普段から見ることもあるミミズなどが分解が早い。また、種類によって、分解できるものが違う。



研究計画

夏に分解者を集めて1年かけて育てる。木などを分解させる。

4～5月	研究計画
6～7月	分解者集め 実験(集めた物から)
夏休み	分解者集め
9～10月	実験
11～12月	反省 実験

参考文献

[持続可能農業の救世主、イエバエが堆肥と飼料を生み出す仕組みとは～ムスカ CEO 流郷綾乃\(前編\) | 農業とITの未来メディア「SMART AGRI\(スマートアグリ\)」\(smartagri-jp.com\)](#)